

Circular

理工サーキュラー

新設学科

4

年間のあゆみ

02

CST+なひと
株式会社IHI エアロスペース
河西 英孝さん

04

まちづくり工学科 4年間のあゆみ

05

応用情報工学科 4年間のあゆみ

特集

06

1期生座談会

09

まちづくり工学科1期生 “卒業に寄せて”

10

私の研究歴 139
海外での調査・研究で大事なこと
自分を育ててくれたベトナム研究
建築学科教授 重枝 豊

12

学生記者が行く！ 033

13

ZOOM UP !! CIRCLE
バスケットボール部/ビーチバレー部

14 culture

15 announcement

16 event report

河西英孝



日本大学理工学部（CST）で過ごした学生時代を自分の力（十）にかえて、各界で活躍する卒業生にお話を伺う「CST+なひと」。今回は、航空宇宙工学科1期生であるIHIエアロスペースの河西英孝さんです。

四力学が基礎となる

私が大学に入学したのは機械工学科航空宇宙コースから学科が独立する年だったので、航空宇宙工学科1期生です。小学生のときにテレビ番組を見て飛行機が大好きになり、「どうせなら好きな航空工学を学ぼう」と思いました。当時「日大の航空」といえば、木村秀政先生や人力飛行機で有名でした。木村先生はすでに名誉教授でしたが、私は2年生のときに先生の授業を受けました。名誉教授が学部生の授業を受け持つのはとても珍しいことで、別の先生からは「あれだけの先生の授業を受けられるなんて、普通は無いぞ」と言われました。これは後から聞きました

が、当時は先生方も「どんなカリキュラムでどう教えていけば良いのか」と、いろいろ悩まれたようです。よく言われたのは、「基礎となるのは「四力学」である」ということ。材料力学、熱力学、流体力学、工業力学、この4つとにかく学びました。当時、アメリカから帰って来られたばかりの柚原直弘先生から言われた「とにかくニュートン力学「 $F=ma$ 」を覚えておけば役に立つ。すべてはこれから始まる」

という言葉がとても印象的でした。力学はものづくりをする人間にとっては基礎になります。大学で徹底的に力学を教わり、会社に入っても役に立ちました。また製図も徹底的に教わったので、製造業に入り「図面を読める／描ける」ことが大きなアドバンテージになりました。1期生ということで学内の期待度も、企業の期待度も高かったと思います。1期生の苦労というのはほとんど無く、逆に恵まれていたような気がします。

技術畑から総務部へ

弊社はIHIエアロスペースという、ロケット飛行体の開発および製造販売を行っている会社ですが、私が入社した1984年には日産自動車の事業部のうちのひとつ（宇宙航空事業部）でした。私は、飛行機に関係する仕事には就きたいのだけれども、飛行機そのものではなく少々違ったことがあったので、「ロケットも面白そうだな」と学校推薦を受けて応募、入社しました。当時、宇宙航空事業部は東京の荻窪にあり、日産という大企業のイメージからはかけ離れた町工場のような建物でした。そこはもともと中島飛行機のエンジン工場で、戦後は、自動車のエンジンやミシンなどを製造しながら、糸川英夫先生のものでペンシルロケットの製造を行ったのがロケットを始めたきっかけでした。私が入社したときは、宇宙ロケットの他に防衛用

ロケットも製造しており、私はその設計部署に配属されました。6年後に品質保証部へ異動し3年勤めたあと設計部署へ戻り7年、そしてまた品質保証部で10年勤めました。

品質保証部とは、簡単に言うとお客さまに製品を納める前に検査し保証する部署です。「これは大丈夫」と文字通り太鼓判を押すわけですから、責任が伴います。製品にトラブルがあると大変です。昨日までうまくいっていたのがなぜ突然ダメになったのか、その原因がどこにあるのかを、お客さまが納得できる筋道で説明しないとイケません。それを限られた時間の中でプレッシャーを受けながらやるのが仕事です。大学で教わった基本原理と、自分が勉強してきたこと、経験してきたことを総動員して解決しなければなりません。とても辛いのですが、乗り越えたときにはものすごく実力がつきます

し、何物にも代えがたい達成感と充実感を得られます。

2010年4月に総務部へ異動しましたが、その2カ月後、弊社が設計・製造した小惑星探査機「はやぶさ」の再突入カプセルが帰還しました。はじめは社内でも「うちでつくったの？」という反応でしたが、無事にイトカワのサンプルを地球に届けることができ、一躍「はやぶさ」フィーバーが巻き起こりました。そのときに押し寄せて来るマスコミの対応をしましたが、そんな経験はなかなかできるものではありません。良い経験をさせてもらいました。

研究室での活動を大事に

私は2年前から週に一度、航空宇宙工学科で設計製図を教えています。私

の学生時代とはカリキュラムが違い、今の課題のほうが大変です。私自身も一から勉強し直しているところですが、今の学生は真面目で、試験期間でもないのに図書館やカフェで大勢の学生が一生懸命勉強している姿が見られます。未来博士工房で衛星や人力飛行機をつくったり、グライダー部に入ったりと、授業や研究以外で没頭できる場も整備されていて、うらやましいです。

大学生活で大事にしてほしいことが、研究室での活動です。それまで勉強してきたことを応用して、初めて専門的な、最先端の研究ができるのが大学の研究室です。「この研究の本質は何か?」「この研究の意味付けは?」まずは、そうしたことを認識するのが大事です。そして物事を論理的に考えられるかどうか。ものづくりをしていると、うまくいかないことのほうが多

く、失敗ばかりです。そのときに、論理的に考え追及する力を養ってあげば、何にでも応用がききます。その第一歩を、大学で踏み出してください。



かさい ひでたか

1959年	長野県生まれ
1978年	日本大学理工学部航空宇宙工学科入学
1982年	日本大学理工学研究科博士前期課程航空宇宙工学専攻入学
1984年	同 修了、日産自動車株式会社入社 宇宙航空事業部技術部
1990年	同 宇宙航空事業部品質保証部
1993年	同 宇宙航空事業部特機技術部
2000年	事業譲渡により株式会社 IHI エアロスペースに転籍 品質保証部
2010年	同 総務部
2015年	日本大学理工学部航空宇宙工学科 非常勤講師

学部長からのメッセージ

14学科の個性とシナジーから理工学部は新世紀へ



理工学部長
電子工学科教授
山本 寛

4年前、理工学部は2つの学科を加え、新たに14学科体制となりました。その完成年度を迎えるにあたり、今号の特集では、

その間を振り返りつつ、今後の展望を語ることをテーマとしています。

理工学部の前身である日本大学高等工学校は、1920（大正9）年、土木と建築の2分野からはじまりました。初代の校長には耐震構造の専門家であった佐野利器博士が就任し、中堅技術者の育成を主たる目標として掲げました。そして、開校して間もない大正12年、関東大震災が発生——震災復興において

同校の卒業生が大きな活躍を果たしたことが社会から高い評価を受け、四年制学士課程を設立する契機となったのです。

大正から昭和、そして平成へと時は進む中で、社会の在り方や私たちの価値観は大きく変化しました。高度経済成長期に加速した技術革新はとどまることを知らず、現在もさまざまなモノが生み出され続けています。今や、単なるデジタル製品からIoT（モノのインターネット

ト）へとシフトしています。こうした科学技術の深化に、すでに22万人を超える理工学部の卒業生が、分野を問わず大きな役割を果たしていることは、私たちの誇りであります。

高等工学校以来、それぞれの時代の要請に即応しながらも、「流行に流されず堅実な学生を育てる」という揺るぎない教育ポリシーを理工学部は堅持してきました。そして、「まちづくり工学科」と「応用情報工学科」

の誕生も、その一貫した流れの中にあります。

理工系の基盤領域となる7学科と先進的な分野を強く意識した7学科——この14学科に支えられ、2020（平成32）年、理工学部は創設百周年を迎えます。各学科で修得する高い専門性はもちろん、学科を超えて創出される学際的なシナジーをも体現し、社会に力強く貢献する人材を、これからは輩出していきます。

まちづくり工学科 4年間の歩み

特色ある教育

「まちづくり」は新しい分野であるだけに、当初、企業の中には本学科の学生がどのような専門分野を修めているのか理解が浸透しきれていないところもありました。それらの企業には教員が熱心にその内容を伝えるほか、技術士補や宅地建物取引士の在学中の取得、ならびに一級建築士や1級管工事施工管理技士などの受験資格を取得するためのカリキュラム面でのサポートと、学科独自の講習などを付加することにより、多くの企業に本学科への理解が促されたものと思っています。その結果、ほとんどの卒業生が就職内定し、私たちも胸をなで下ろしています。公務員は本学科において、もっとも活躍の場が期待できる職種のひとつと認識しています。私たちは近い将来、試験区分に「まちづくり」といった分野ができるものと想定していますが、現状では「土木」「建築」「造園」といった一分野で受験せざるを得ないため、本学科の学生が不利にならないよう公務員講座等を学科独自に設け、1期生の約3割を公務員として送ることができました。



前 教室主任
横内 憲久 特任教授



現 教室主任
八藤 後 猛 教授

着実に高まる学科ニーズ

今後のまちづくりは、高度成長期のように新しい社会インフラをどんどん創り出すということはあまりないかも知れませんが、しかし環境、景観、福祉といった生活の質的向上を目指し、高度成長期とは異なった豊かさの技術的発展はさらに求められていきます。そうした社会的要請に応えられる技術と思想をもつ学生を送り出すために、私たちはさらなる教育の革新と研究の高質化を進めています。

2013（平成25）年に創設したまちづくり工学科が83名の1期生を迎えてから4年が経過し、初の卒業生を社会に送り出すことになりました。学科創設の翌年からは、「まちづくり」に関する社会と私たちの理念が早くも受験生に浸透し、2期生は129名と大幅な受験生増となり、この傾向は今日も続いています。

オープンキャンパスで在学生がいきいきと自分の学科を紹介する姿は、受験生やその保護者に、これからの日本社会にまちづくりの専門性が必要なことを確実に印象づけていると思います。

学科設立の社会背景

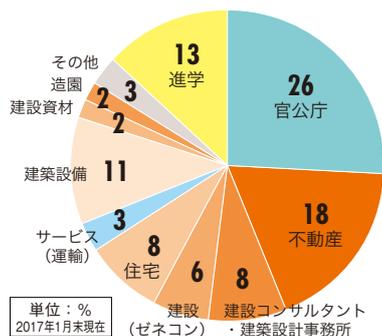
戦後わが国は高度経済成長とともに、技術力を背景としてもづくり、そして国土インフラづくりへと邁進していきました。こうした経済成長は、1990年代初頭のバブル崩壊まで三十余年にもわたって続きましたが、今日では長期にわたる景気の停滞と、著しい少子高齢化など社会情勢の大きな変化ができました。さらに阪神淡路大震災、東日本大震災等、幾度となく繰り返される災害によって、私たちは、安全や幸福は、単に技術のみでは解決しないことを認識することになりました。このような中で、従来の学問体系においてさまざまな分野に分散していた「まちづくり」の課題を統合し解決すべく、新しい「まちづくり学」が社会から求められるようになりました。これまで驚異的な技術的発展を見てきた土木工学、建築学などのほか、環境、景観、観光、健康・福祉、安全・安心といった社会的な喫緊の課題をいかに統合し解決していくか、といった視点をもつ工学として「まちづくり学」の発展が期待されるに至りました。まちづくり工学科は、こうした社会的ニーズを背景に創設された学科です。



① 2年次オリエンテーション ② 2年次「まちづくりワークショップI」 ③ 卒業研究審査会 ④ 第1回海外研修旅行（2015年）

進路状況

まちづくり工学科では、大学本部や理工学部で主催するキャリアサポートプログラムへの参加推奨だけでなく、学科独自のプログラムや志望先に応じた個別指導・相談を通じて、学生のキャリア支援および就職活動をサポートしてきました。1期生の進路は公務員として官公庁への就職者がもっとも多く、学科設立時に掲げた目標をほぼ達成できたといえます。それ以外では、不動産、建築設備、建設コンサルタント・建築設計事務所、住宅、ゼネコン、運輸、建設資材、造園といった幅広い業種へ就職が決定しました。関連業種の多彩な「まちづくり」業務に相応した結果であり、本学科の特徴が如実に表れたといえます。さらには、平成29年4月設立予定の大学院修士課程まちづくり工学専攻への進学者も8名に上ります。



応用情報工学科

4年間の歩み

特色ある教育

ベースをしっかりと押さえて未来を切り拓く力を養うため、応用情報工学科では自ら考える、考え方を中心とした授業を展開すべく、授業時間は過剰にならないよう適切に設定し、かつ工学寄りの実験、実習などの実学に力を入れたカリキュラム編成としました。例えば、情報系の大学では少ない1～3年次での「情報工学実験」、4年次では3～4人のチームで課題を解決しながらシステムを構築する「プロジェクト実習」などがあります。このほか、情報工学で取り扱う分野はかなり広いので、キャリア教育にも力を入れ、2年次で「キャリアデザイン」、3年次で「インターンシップ」を授業として取り入れました。「キャリアデザイン」は外部講師をお願いして、進路から人生設計まで講義していただきました。「インターンシップ」の受講者はやや少な目でしたが、実施した学生の成果報告会の様子からは視野の広がりが見られ、その後の勉学や進路決定にも大いに役立ったように思います。



前 教室主任
泉 隆 教授

現 教室主任
吉川 浩 教授

応用情報工学科は、情報工学に特化した学科としてまちづくり工学科と同じく2013（平成25）年4月にスタートしました。

これまでわが理工学部には、2001（平成13）年4月に電子工学科から電子情報工学科に名称変更した、電子と情報を学ぶ学科がありました。応用情報工学科はこの電子情報工学科の一部を引き継ぐとともに、ソフトウェアを重視したカリキュラム編成の学科として新しく生まれました。

学科創設から4年、おおむね当初の設置計画通りに進めることができました。ご協力いただいた学生諸君ならびに関係各位に感謝申し上げます。

教育研究

応用情報工学科の教育研究の柱は、PCやスマートフォン、クラウドコンピュータなどに象徴される「情報処理」と「ネットワークシステム」、これに家電や自動車に欠かせない「組み込みシステム」を加えた3分野です。いずれも、私たちの社会生活になくてはならないものです。これらの技術は日々新しくなっていますので、今注目されているものはもちろんですが、その中で基本となる考え方や基盤技術を中心に学びます。ベースをしっかりと押さえて未来を切り拓く力を養うことを第一と考えてきました。

学生生活

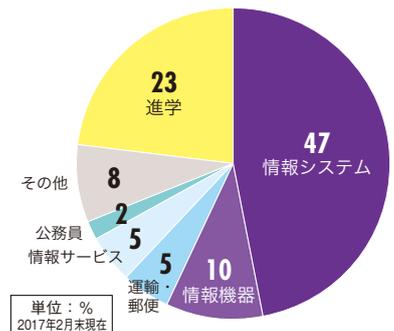
応用情報工学科では、豊かな学生生活を送ってもらう取り組みも行っています。1年次のスタートには、「フレッシュマンミーティング」と称する少人数グループでのフリーディスカッションの場を設けたり、情報処理およびネットワーク、組み込みシステムに関するそれぞれの分野における専門家による特別講義を企画したりと、学生のモチベーションアップに努めました。また、学科オリエンテーションとしてスポーツ大会やバーベキュー大会、東京ディズニーリゾートツアーなどを実施し、学生同士あるいは教員との親睦をはかっています。



① 設立初年度のスポーツ大会 ② 設立3年度のオリエンテーション(BBQ) ③ 1年次「情報工学スタディ・スキルズ」 ④ 2期生入学時ガイダンス

進路状況

1期生の卒業予定者は97名、そのうち本学大学院理工学研究科情報科学専攻への進学22名、公務員就職3名、企業就職68名が内定しています（2月末現在）。内定企業は、日本電気、富士通、NTTデータ、ドコモ・システムズ、ソフトバンク、SCSK、伊藤忠テクノソリューションズ、凸版印刷、東日本旅客鉄道、スズキなど。業種は、情報システム開発、ソフトウェア開発、情報機器メーカーなど。また職種については、システムエンジニア、ソフトウェア技術者、組み込みシステム技術者をはじめ、多岐にわたっています。平成26年度からは「情報」（高校）および「数学」（中学・高校）の教職課程もスタートし、今後、教職に就く学生も増え、さらに広範な分野で卒業生が活躍してくれるものと期待しています。



竹下 晃司さん

まちづくり工学科 (仲村研究室)

森 紗耶さん

まちづくり工学科 (岡田研究室)

応用情報工学科×まちづくり工学科
1期生座談会

新設学科に入ろうと思ったきっかけ、決め手は何でしたか？



竹下 (以下顔写真) /僕は日大付属高校出身で土木系が進学先の候補でしたが、先生から「新しい学科ができるから、候補に入れてみれば？」と勧められました。僕は引越しが多く、いろんな場所を見てきてまちづくりに興味があったので、いろいろと考えた結果、まちづくり工学科に進学を決めました。



森 (同) /私も付属生ですが、高校生方が学校に来てくださって「理工学部に新しい学科ができる」という話を聞きました。もともとデザインに興味があっ

たのと、「新設」というワードに惹かれました。まだ土台や伝統が無い中で、大学生を送りながら先生方と一緒に場をつくり上げられる、そういう立場になれるのが面白そうだと思います。



僕は、祖父が工務店をやっていたので建築にも興味があります。が、今は土木系の研究をしています。やりたいことは後から決めれば良い、取りあえず入ってみよう。みんなも、授業を受けながら方向性が決まっていって思っています。



3年生になって研究室に所属する時に、自分のやりたい系統が決まった人が多いようです。



福田 (同) /僕は、どちらかというとハードウェアよりもソフトウェアのほうを勉強したいと思っていたので、応用情報工学科を選びました。



相良 (同) /私は両親が情報関係の仕事をして

いたので興味があり、情報関連の大学を見てまわっていました。新設の学科があるというのをオープンキャンパスで知って、先生方の話を聞いて楽しいな学科だと感じました。

特徴的・印象的な授業は何ですか？



3年生の「ワークショップ」で夏休みにやった「まち歩き」だね。班ごとに木更津や越谷など、行き先を決められました。3日間現地に入って、そのまちを活性化するための地域資源を発掘するために歴史・文化を調べたり、景観調査に取り組みます。



1日目は役所の方に地域の概要について聞きますが、その後は自由。地元の人にお話を聞きながら調査し、それを班ごとにまとめて発表します。現地でお話を聞くと、教科書には載らないような地域のリアルな問題がわかります。まちづくり工学科では、グループワークが基本です。3年生は「都市・地域デザイン演習」という授業もあり、グループで特定の地域デザインをします。「お互いの意思を伝え合い合意形成することができるようにならないと、実践ではキビシイよ」と先生に言われました。一人でやる作業は、



できて当たり前。最低限のことは一人でいい、そこから先はその成果をみんなと一緒に高めていきます。



応用情報工学科では、3年生まで実験がありました。他大学の情報科では、あまり実験が無いよう



最初は機器の使い方など、基本的な実験から始まります。4年生には、「プロジェクト実習」という授業もあります。



1年生は基礎的なところ、2年生でちょっとソフトが乗るようなネットワーク、3年生は完全にシステムを最初から自分でつくります。だから予習しないと絶対にできません。



4年次 プロジェクト実習

福田 卓海さん

応用情報工学科 (高橋研究室)

相良 滯さん

応用情報工学科 (木原研究室)



実験の答えがないものが多いので、みんな正解がわからないままやるしかないんです。

とくに3年生でやった公開鍵と暗号鍵の実験では、「C言語を予習して来て」とは言われましたが、学生にとっては大変でした。

4年間で身についたこと、もしくは身につけなかったことは何ですか？

私はパソコンについて全然知らないところからスタートして、最初は頑張りました。友達と勉強会をしながら知識を増やしていきました。ただ、私たちの授業を受けたことがある先輩が

いたら、もっと教えてもらえたのにな、とは思いました。3年生からは研究室に入って研究も頑張り、4年生の9月には、電子情報通信学会で発表することができました。

僕は3年生の時にインターンシップに行き、4年生では研究室の活動を通して外部の人と対応するようになりま

球部だったので、事務方をやると他大や連盟の方に会うことがあり、一般常識はそれなりに身についたような気が

新しい研究室だったので覚えられました



オープンキャンパスでの発表

します。オープンキャンパスやインターンシップでは発表もしましたし、就職活動での面接も重ね、プレゼンテーションや話す機会が多くあったので、淀みなく話せるようになったと思います。

私は4年間でまちづくり工学科の宣伝を、すごく頑張りました。

1年生の最初のオープンキャンパスから、1回しか休んでいません。はじめはオープンキャンパスでの発表も原稿を読んでいましたが、3年生にもなると時間を見ながら自由に話せるようになりました。オープンキャンパスに参加すると先生方と話す機会が多くあるので、いつの間にか大学院への進学を考えていました。4月に新設されるまちづくり工学専攻に進学します。

そこもまた、1期生だよな。

私もプレゼン力や文章力がついたと思います。学会もそうですが、学内の学術講演会でもポスター発表を

しました。毎年、実験のレポートを書くので、前よりも文章が書けるようになったと思います。「文章が違う」という指摘をされたことが多かったので、レポートを提出していく中で、文章の書き方を学んでいきました。

仕様書が読めるようになりまし

た。あとは調べる力がつきました。検索ワードの入れ方で、効率的に調べられるかどうか。ほかの人に質問する時もあいまいに聞くのではなく、「何がわからない」とか「ここまでは考えたんだけど」と、具体的に聞けるようになりました。実験のおかげかもしれせん。

1年生のレポートは考え方が合っていればOKでした。2年生になると、論理立ててできているか。3年生になると、目的からやり方まで全部通して筋が通っているかどうか。文章力もつきますね。そのおかげで、論理立てて話せるようになりました。僕たちが1年生の時は合格するまで差し戻しの回数制限がなかったから、レポートが合格していない人は夏休みに呼び出されました。

前期で4個の課題が出るのですが、それができていない人は夏休みに呼び出されて、大学のパソコンを使って一生懸命レポートを書きました。

「期限は、18時です」と言われて。僕は2個できていなかったもので、朝から取りかかって、終わったのが16時。

私は18時までかかりました。

赤ペンでチェックされて、またやり直すのですが、何がダメなのかかわからない。「実験が間違っていたら、間違っていたなりの考察を書きなさい」と言われました。



学術講演会での発表

1期生ならではのメリットとは？

先生がすごく目をかけてくれていて、
るな、というのを感じます。
女子が少ないから。

たしかにそれはあるかも。1学年
定員100人のうち、1割くらい
しか女子がないので。

男子には、そういうのは無いから。
でも全体的に、1期生だから先生
方が授業にも就職にも力を入れて
くれていると思います。

1期生というのは、単位もちゃん
と取ってほしいし、就職もちゃん
ととしてほしいから、先生方は必死に
なってくれたと思います。
す。まちづくり工

学科はいんな
学科から先生が
集まっている
ので、就職先の
ネットワークが
すごく広い。
それはメリッ
トだね。



サークルで先輩とつながりができたので良かった

「情報」はどこに行っても必要になる
知識なので、就職先の選択肢が多い。
「情報」は必ず必要とされるスキルだ
と思います。

「情報」の基礎資格で、IT系の
企業で必要といわれている基本
情報技術者試験というのがあります。
この試験は思ったより簡単で、3年生
のときに取得できました。授業で勉強
した内容がたくさんあり、試験勉強に
は苦労しませんでした。学科で学んだ
ことで、知らず知らずのうちにいる
ると思いついていたかな、と思います。

1期生として将来の目標はありますか？

僕は横須賀市役所に土木職とし
て就職が決まりました。いつか
学科の後輩が同じ職場に入ってきたら、
同じ学科だな。俺は1期生だよ、と言え
るようになったら、うれしいです。10年後
には卒業生が1千人になるので、その
中から1人ぐらい来てくれれば。

私は新しくできるOB・OG会
(桜まち会)の初代会長になりました。
自分が1期生だからこそわかる、
先生方の学科への熱い思いがあります。
先生方の思いを一番強く、1期生はも
らっていると思います。後輩たちが、
どういう思いや理由でまちづくり工学
科に入ったのだとしても、「こういう先
生方が、こういう思いでつくった学科
だ」ということを継承して、伝えられ
る人になりたい。「出た、この人のこの
熱い話は長いぞ」と言われるようにな
りたいです。



学科としては最先端なテクノロジーを学べるのがいい

私の就
職先は
NECです。
キャリアネッ
トワークの
部署です。研
究室もネット
ワーク系の研究室
でした。将来、結婚や
出産をしても仕事が続けられるところ
に勤めようと思いい、そういうシステム
がしっかりしているところを重点的に
探しました。ですから、後輩たちに「結
婚・出産を経ても働き続けられるんだ
よ」ということを伝えられる人になりた
いです。大学に企業の方が来られる場
合は男性の方が多かったので、「女性の

働き方はどうなんだろう？」と気になっ
たことがあります。だから私はそい
うイベントには積極的に参加して「こ
ういうことをやってきた」「女性から見て
こんな会社だよ」ということを宣伝でき
るようになりたいです。

僕は大学院に進学するので、まだ
具体的なことは考えていないので
すが、研究室で過去の研究を調べている
と、「あの人がこれをやったよ」という
ファイルやアプリケーションをもらうこ
とがあります。僕もそういうものを残せ
たらいいな、というのが今の目標です。
あと2年で自分の選択肢を広げ、漠然と
ではあります、将来は世の中に影響を
与えられるような大きな仕事をした
と思います。



1期生 新入生歓迎式にて



完成年度のオリエンテーションにて

学生生活全力で謳歌した勝ちです 楠崎悠加

お世話になりました！祝卒業 中原真緒

まちづくりって、おもいやり 横井 悠

まもなくまち科に未来が参ります 石松 玲



何事も計画的に 荒木浩二郎



まちごとお世話になりました！ 柴田監理



強いメンタルを持ってください 稲垣 彰



残りの学生生活を楽しんで！ 海保直也



ここで学べることは全て糧になる 茅沼陸王



みんなと多くのことを学べました 佐藤弘樹



しっかり勉強頑張ってください 長島知宏



お世話になりました。お元気で。 小林大悟



デジャヴと感じる再履修 久松賢生



頑張ってください 宮澤祐子



学校と家が近いと溜まり場になる 南 将之進

青木先生お世話になりました!! 佐藤佑樹

いいまちつくってください 小椋貴之

意外と何とかなる！ 岩切颯太

まちを創る・まちに生きる 岸田 樹



まちづくり、5文字に込めた未来 関根博史

人生は重要な選択肢の連続です。 篠田天太

いろんな体験ができました。 熊田悠大



4年間で色々な学びがありました 藤村祐貴



まちづくりのバイオニアへ！ 尾崎画弘



みんなでいい国をつくってこう 山元 皓



この4年間は私の大切な財産です 前原千智



今まち科を想う 佐々木 凌



夢と志を大切にしてください！ 飯村壮一郎



自分の夢のために頑張ります 佐藤元春



卒研は計画的に 君嶋裕貴



今だけを精いっぱいやらう 桑田貴一



やりたいことをやるのが1番！ 清水雨子



後悔のない人生を歩みます。 山田天斗



修行あるのみ 松崎翔矢



いつまでもまち科愛 by O-lab 森 紗耶

ともに研究してくれた近藤に感謝 布川拓実

未来の和のために今を変えろ！ 白石翔大



横内・押田研究室ありがとうございました！ 松下敬里香



まちづくりで地方を豊かにしたい 坂村聖佳



サークルに入っておけばよかった 吉村良啓



忘れられない思い出いっぱい 柳川 星



早かった4年間... さようなら 清宮宇祥



とても充実した大学生活でした！ 稲葉達哉



人生30000日 大橋一稀



幸せな家庭を築いていきます！ 石井崇人



ありがとう楽しかった！ 布施俊太郎



チームワークを大事に 瀧澤慎太郎



仲良かった友達、ありがとう！ 日下田一舞



船橋校舎時代は楽しかった。 篠崎史弥



小さくても、一歩ずつ前へ進もう 三澤結佳



やりたい事 全てやってください 中村偉汰



社会の需要がある人間になろう 只浦啄郎



とんでも楽しい学科でした 加藤有紗



1期生として道を作ります。 樋口瑛大



ありがとう毎日が最初の一步 村山 昶



百鬼は一触に如かず。 染谷翔也



辛いことも楽しんで下さい 吉田圭佑

日本中にもっと、あったかを、高野秀太

いろいろな趣味を持つ友人を作りましょう 高野斗勝



4年間ありがとうございました！ 島森晃一

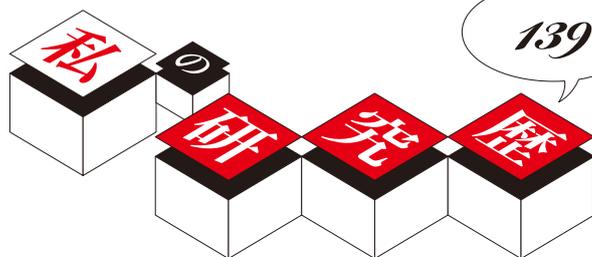


感謝の気持ちを忘れずに 水石知佳



ひらがながかっこいいじゃん 池田富太郎

まちづくり工学科1期生(有志) “卒業に寄せて”



建築学科教授

重枝 豊

海外での調査・研究で大事なこと 自分を育ててくれたベトナム研究



ン氏（以下キイさん）への手紙のコピーが送られてきた。

すぐに出発となり、ハノイで省係長ダン・バイ・バン氏から調査のための便宜供与と紹介状を受けとった。彼は日本での講演会に招かれた時の顔見知りだった。その時にバイさんを紹介してくれたのも千原先生だった。

当時のベトナムは観光客といえども厳しく管理されており、「移動許可書」が必要だった。申請したスケジュール通りに移動しなければならず、調査遺跡の順番を変えることも許されなかった。また、すべての橋や政府系建物の撮影も許されなかった。旅行会社の手配してくれた車と通訳は文化公安（主に外国人の素行調査）に帰属していたから、私の動きは当局に筒抜けだった。

夕食後に歩いて飲みに行った店のことまで、翌朝には、滞在していた政府系ホテルのフロントも、アポを取っていた博物館の館長も、知っていた。社会主義国家の情報管理の恐ろしさを痛感した。

ハノイを後にして、研究対象である



図1 チャンパー文化の重要性をレクチャーするキイさん

研究生生活を振り返ってみると、やはり、ベトナム社会主義共和国（以下ベトナム）とカンボジア王国（以下カンボジア）研究での人との出会いが研究生活に大きな役割を果たした。二つの国を同時に調査・研究したのは、比較研究を目論んだためだったが、それよりも、現地で各分野の研究者が独自の意見を持っていたことが新鮮だった。両国は貧しいだけでなく社会的にも混乱していたが、文化財保護のために同じ情熱を傾けることができた。政治的に不可能とされた多分野の研究に、道筋をつけられたことに感謝している。

二つの国との出会いは、突然やってきた。指導教員だった故片桐正夫名誉教授（当時 専任講師）、稲葉和也先生（東海大学）から紹介されたインドネシア研究の千原大五郎先生に夫婦で夕食に招かれたおりに、「キミのやろうとしている日本の住宅史研究は、国内に競争相手がたくさんいる」、「すぐに第一人者になれるから、ベトナム研究をやりなさい」、というアドバイスだった。後日談だが、千原先生は事前

に片桐、稲葉両先生に私をアジア研究に引き込むことの許可を取っていたことを、20年後になって知った。

帰りの電車の中で考えた。もう35歳になるのにこのまま研究を続けていいよいか。庶民の立場からみた日本建築史構築を目論んで、民家、近代建築、社寺調査を続けてきた日々を振り返ったが、結論は出なかった。それでも翌日から千原先生の名著『東南アジアのヒンドゥー・仏教建築』（鹿島出版会、1982年）を読み直してみた。この著作を越える論文が書けるのかという視点で。

千原先生の爆弾発言から1週間後、研究室に電話が入った。「パスポートのコピーを送りなさい。12月出発の航空券とビザを取っておくから旅行会社と行程を調整しなさい」とのことだった。旅費・滞在費を負担してもらおうとなれば、ベトナムに行かないといけなくなかった。しばらくすると今度はベトナムの文化・スポーツ・観光省係長へ送ったファックスのコピーと、チャム彫刻博物館学芸員のチャン・キイ・フォ

しげだ ゆたか

1977年3月	日本大学理工学部建築学科卒業
1980年3月	日本大学大学院理工学研究科博士前期課程（建築学専攻）修了
1980年4月	日本大学理工学部海洋建築工学科 副手
1984年3月	日本大学大学院理工学研究科博士後期課程（建築学専攻） ・単位取得退学
1996年4月	日本大学理工学部建築学科 助手
1999年7月	博士（工学）の学位取得（日本大学）
2001年4月	日本大学理工学部建築学科 専任講師
2005年4月	日本大学理工学部建築学科 助教授
2007年4月	日本大学理工学部建築学科 准教授
2010年4月	日本大学理工学部建築学科 教授



図2 ミーソン遺跡に完成したサイトミュージアムの内部

チャンパー王国の聖地ミーソンを訪れるためダナン市へと向かった。キイさんとは空港で待ち合わせの予定だったが、飛行機は遅れ、国内線というのに手荷物検査に1時間かかった。それでもキイさんは待つていてくれた。初対面のキイさんの印象は、小柄で文化的な二オイのする人だった。ホテルへ向かう車中で明日の予定を決めた後、ラウンジで二人でビールを飲んだ。キイさんは鈴木大拙の『禅と日本文化』、西田幾多郎の『禅の研究』について話を延々と続けた。ハノイでは一部の役人とホテルの受付以外では英語は通じなかったから、食事は人の食べているものを指さして食べるしかなかった。しかし、キイさんとの出会いで、日本語で理解していることを英語で話すというトレーニングが始まった。私にとって英語で自分の意見を伝えることの大切さは、これまで学んだことの中で最も大事なことであった。

翌日から、600キロを超える南のホー・チミン市までのチャンパー遺跡行脚が始まった。キイさんの交渉で調査がスムーズに動き始めた。20世紀初頭のフランス人考古学者アンリ・パルマンティエによる先行研究の資料を頼りに、草刈りをしながらその後の遺跡の破損状況を調べていった。

キイさんとはその後のベトナム調査ではいつも一緒に、個人的な文化通訳を務めてくれた。ベトナム人の発想法や思考の癖など、ベトナム文化の根底に潜んでいることを教えてくれた。家

族も何度もベトナムに滞在している。今でも家族ぐるみの交流が続いている。

1990年から続けてきたチャンパー遺跡の調査成果は1999年に博士論文にまとめた。その資料は1999年12月に聖地ミーソンが世界遺産登録される基礎データとなった。その間に国内5箇所（名古屋、東京、大阪、広島）で「チャンパーの遺跡と文化展」をトヨタ財団の支援で実施した。1994年からは世界遺産のフエで明命帝陵の調査と解体修理に着手した。現地のスタッフが納得するまで議論したせいもあって4年半かかった。キイさんと共通の友人で、フエの修復を一緒にやったブー・フー・ミンが列車事故で亡くなったのは残念だったが、ミンの弟子だったグエン・テー・シヨンが技師長として今も奮闘している。2003年からは世界遺産となったミーソン遺跡入口に、外務省の文化無償援助でサイトミュージアム計画し、2006年に完成させた。世界遺産に対する最初の文化無償であると同時に、建物だけでなく展示内容を含めてソフト・コンポーネントとしたので、すべての調整に関わることになった。

その合間に時間をみつけては少数民族の民家調査、1997年からは北部を中心とした仏教寺院の調査を行い、2004年には指導にあたっていた大山亜紀子さんがベトナム北部の仏教建築の変遷を初めて明らかにした博士論文を提出した。2009年にはカンボ

ジア人留学生チェン・ラタさんが書き上げたクメールのレンガ建築の構造技術の発展過程についても指導と調査を務めた。初めてカンボジア調査に訪れた1990年に指導したブノンペン芸術大学の学生だったラタさんも、日本大学で博士の学位を取得した後はカンボジアの遺跡修復センター・アプサラの副所長を務め、遺跡保存の最前線で尽力している。

政治的に不可能だと考えられていた調査と成果を挙げることでできたのは、研究の手法だけではなく多くの協力者のおかげであった。カンボジア調査団に誘って戴いた石澤良昭上智大学教授・団長、世界遺産フエでの木造修復技術の指導してもらった田中文男棟梁、ユネスコの会議で流暢なフランス語で助けてくれたベトナム政治史の坪井善治早稲田大学教授（当時 北海道大学教授）、牧田東一桜美林大学教授（元トヨタ財団プログラムオフィサー）、思い出せばたくさんの人に助けられた。

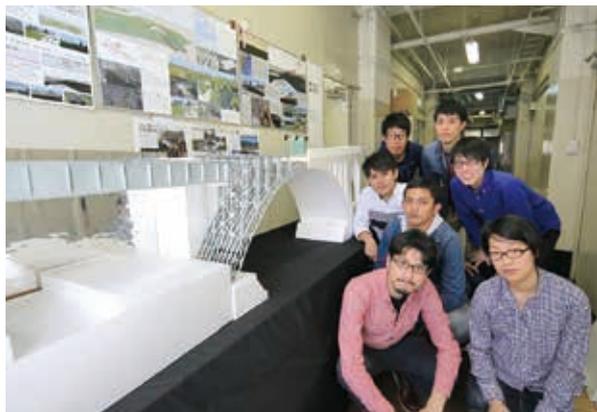
現地の研究者と一緒に育っていくところ、海外研究での重要なことである。理工学部の学生も国内外を問わず挑戦する気持ちを強く持てば、必ず誰かが助けてくれる。少なくとも見守ってくれている人は必ずいる。これが私の研究の基本になっている。

※カンボジアについては紙面の都合で割愛しベトナムを中心に記載した。



第12回土木学会景観・デザイン研究発表会 景観デザイン演習作品展 優秀賞受賞

2016年12月10日-11日



模型完成時の集合写真

土木学会の主催する「景観・デザイン研究発表会」が、2016年12月に高知工科大学で開催されました。この発表会は、美しい国土づくりのための、計画・設計およびマネジメントといった創造的営為の実践に内在する、学術的知見や技術やアイデアを対象としたものです。発表は、口頭発表、ポスター発表、演習作品展に分かれています。口頭発表63編、ポスター発表11件、演習作品展11点で、来場者は300人余りでした。

演習作品展は、東京大学、京都大学など全国の大学から参加があり、都市モデルの模型や公園のデザイン演習模型、ポスターなど、さまざまな演習作品が展示されました。今回私たちは、3年生後期のゼミナールの一環で作成した「聖橋」（スケール30分の1、約2m）を演習作品展に応募しま



破損した模型の修復

した。「聖橋」は鉄筋コンクリートの名橋として有名ですが、実は等辺山形鋼（L型鋼）をメラン工法（鋼材でアーチを組み立てた後に、コンクリート打設する工法）として用いており、いわば鉄筋と鋼材のダブル補強コンクリート構造なのです。当時の最先端技術を、模型で再現しました。鋼材はケント紙を用いて3500個のパーツを切り出し、組み立てるといってつもの作業でした。

最初のハプニングは、このケント紙が水分を吸収し、模型が座屈破壊（折れて壊れる）したことです。ケント紙の間にプラスチック板を設け補強して、また一から作り直します。そして次のハプニングは、高知工科大学に送付する際に十分な養生をしていなかったために、現地で開封したらバラになってしまったことです。高知で補修材料を入手し、先生や先輩方と一緒に組み立て直し、無事当日に展示することができました。

発表当日は、1時間のコアタイムで学会に参加された方に向けて演習作品の説明を

しました。「聖橋の本当の姿を知ってもらおう」というテーマのもと製作した模型なので、設計者の考えや構造の工夫、当時使われた最先端技術などを中心に説明したのですが、分かりやすく説明するのに、非常に苦労しました。人に分かりやすく説明する能力をもっと伸ばす必要があると感じる良い経験になりました。

夕方の懇親会では、他大学の教員や学生、企業の方々とお話しすることができ、交流を深めました。この懇親会で演習作品展の表彰式が行われましたが、「優秀賞」でチーム名が呼ばれた時は本当にうれしく、努力が報われた瞬間でした。また今回の学会は、初めて参加した学会だったので、講演で聴講する内容だけではなく、プレゼンテーションの仕方など、多くのことが勉強になりました。今後、ここで得た知識や経験を研究活動に生かせるよう、精進していきたいと思えます。



受賞式の様子

File no. 67

バスケットボール部

バスケットボール部には毎年100人ぐらいが入部します。練習は週3回、火曜日と水曜日の16時半からが全体練習、土曜日が自主練習で、すべて理工スポーツホールで行っています。ほとんどが中学・高校のバスケ部出身者ですが、初心者も歓迎です。

毎年6月と11月には、尾瀬で行われる大会に出場しています。2016年



11月に行われたOZE CUPには男子から5チーム出場して最高位が3位、女子チームは2位になりました。また毎年行われる日本大学体育大会にも出場しており、2016年大会では優勝しました。2016年は7月から11月まで行われたSBAリーグ戦にも参加し、東京リーグで優勝しました。そこで出場権を得た1月の関東トーナメントでは準優勝し、全国大会でもベスト8の成績を残しました。強豪校のバスケ部出身者もいるので

個々の能力が高く、それが好成績の主な要因だと思います。

授業優先のため練習参加は強制ではありませんが、とにかくバスケが好きでバスケがたくて練習に来ています。高校までの部活は練習が厳しく辛いこともあります。ここでは「楽しくバスケをすることができます。」ことができます。部員数が多いので、勉強にも生かせる同じ学科の先輩とのつながりができることも、バスケットボール部の魅力のひとつだと思います。



File no. 68



ビーチバレー部

普段の活動は週に2回、火曜日と木曜日に理工スポーツホールでバレーボールをしています。ビーチバレーをするのは年に一度。3泊4日で行く神津島での夏合宿のときだけです。“ほぼ”バレーボール部、という感じです。

部員はほとんどが運動部経験者。でも、部活でバレーボールをしていた人は1、2人しかいません。本気の部活から

は卒業して大学では楽しく体を動かしたい、という人が集まっています。「バレーボールって楽しそうだけど、初心者だから……」という人にはオススメです。また、「バリバリの運動部は気後れる」という人にもオススメです。バレーボール初心者でも試合形式で練習しながらだんだん上達でき、やっていくうちにスパイクがきれいに決まるようになります。良いプレーが出ると、ハイタッチしてみんなで喜び合うのが楽しいです。

まだ大会に出たことがないので、これからはビーチバレーの大会に出たいと考えています。そのため、もっとビーチバレーができる機会を増やしたいですし、普段の練習で教える／教わる時間を増やして、バレーボール自体の技術向上もできたら良いと考えています。まずは気軽にバレーボールをしに来てください。仲間と一緒に良い思い出をつくることができると思います。

BOOK

『日常にひそむ数理曲線 DVD-Book』

ベネッセ教育研究開発センター、慶応義塾大学佐藤雅彦研究室 企画制作
佐藤 雅彦+ユーフラテス 編集・執筆／小学館

「数学や物理の計算ができる」「数式の意味がわかる」ということを超えて、生活のなかの数式・数理曲線を可視化して、美しく不思議な世界をひらいてくれるDVDブック。この中で、自然の中のモノやモノの動きが作り出す秩序や数理と、数理を活かした実用的なモノの両方の世界を感じることができる。「ピタゴラススイッチ」を手掛けた佐藤雅彦研究室による企画・制作は、映像としても面白い。数学や物理が好きな人はもちろんのこと、私のような文系の人間にも楽しめる。ぜひ、この面白くも美しい数理曲線の世界を味わってもらいたい。

(一般教育教職系列准教授 黒田 友紀)



BOOK



『ROS プログラミング』

銭 飛 著／森北出版

最近は小ささまざまな形のロボットを見かけることが多くなりました。そんなロボットですが、実際に作り動かすと、簡単には動いてくれません。本書は、簡単ではないロボットプログラミングをなるべく簡単にしてくれるROS (Robot Operating System) というミドルウェアについて書かれています。ROS とはこういったものかという説明や、ROS を使うための準備からプログラムの作成方法などの基礎的な事項、そしてロボットを動かすシミュレーションや今はやりのドローン動かしてみるなど応用的な事項まで、わかりやすく書かれています。ROS でロボットを動かすときには、この本が助けになってくれると思います。

(精密機械工学科4年 荒兼 潤也)

BOOK

『天空の蜂』(講談社文庫)

東野 圭吾 著／講談社

防衛省の新規開発の巨大ヘリコプタがテロリストに奪われ、爆発物を搭載して原子力発電所の真上で自動制御によるホバリング状態に。テロリストの要求は、機体の燃料が尽きる約6時間後までに国内の原発をすべて使用不能にすること。さらに、無人のはずの機体には、不慮の偶然が重なり子ども一人が取り残される。航空・原子力技術者、政府、警察、自衛隊、家族、原発推進・反対派の各立場での思惑が交錯しながら、墜落事故の回避と子どもを救出するために奔走する。理系出身の東野さんらしく、明解で論理飛躍のない展開で、圧倒的な緊迫感とスケールで話が進みます。20年前の小説とは思えない、震災後にえぐり出される問題を暗示する内容で、2015年に映画化もされました。

(航空宇宙工学科准教授 安部 明雄)



<p>学生課（保健室、学生相談室）</p> <p>① 学生の厚生補導に関する事項 学生の健康管理・健康診断に関すること 学生相談に関すること 通学証明・学割証明に関すること 学内外各種奨学金に関すること 拾得物・遺失物に関すること 学部祭・スポーツ大会等行事に関すること 留学生のサポートに関すること 学生団体（サークル）の活動に関すること 下宿・アパート相談会に関すること 傷害事故等の報告に関すること</p> <p>② 学生支援関連事項 八海山セミナーハウス・天文台の利用に関すること 学生食堂・購買部に関すること</p> <p>学生課 駿河台：1号館1階 03-3259-0608 船橋：14号館1階 047-469-5395</p> <p>保健室 駿河台：5号館2階 03-3259-0612 船橋：14号館1階 047-469-5222</p> <p>学生相談室 駿河台：5号館2階 03-3259-0611 船橋：14号館1階 047-469-5296</p> <p>学生相談室船橋校舎予約 E-mail：funabashi-soudan@sps.cst. nihon-u.ac.jp</p>	<p>就職指導課</p> <p>① 就職に関すること 就職・キャリア相談 求人票の公開 NU就職ナビ 就職・キャリア支援プログラムの実施 (インターンシップガイダンス/適性試験模 試/面接講座/学内セミナー等) 公務員試験対策プログラムの実施 (公務員試験対策講座/合格体験談/模擬面 接/論文添削) 教員試験対策プログラムの実施 (教員採用試験対策講座/模擬試験)</p> <p>駿河台：お茶の水校舎2階 03-3259-0644 船橋：図書館1階(キャリア支援センター) 047-469-5202</p>	<p>announcement 事務局からの お知らせ</p> <p>各課の仕事を紹介します。 ①：学生生活に関する業務 ②：教職員・対外に関する業務 ■の業務は、それぞれの課で直接手続きす るなど、学生諸君と関係の深いものです。</p>
<p>図書館事務課</p> <p>① 学習・研究に必要な資料・情報の収集と提供 資料の貸出・返却・予約・閲覧・複写 レファレンスサービス 図書館相互利用（文献複写・現物貸借等） 図書館所蔵資料の検索（OPAC）</p> <p>② 教育・研究に必要な資料・情報の収集と提供 資料の貸出・返却・予約・閲覧・複写 レファレンスサービス 図書館相互利用（文献複写・現物貸借等） 図書館所蔵資料の検索（OPAC）</p> <p>駿河台：お茶の水校舎4階 03-3259-0639 船橋：図書館2階 047-469-5340</p>	<p>庶務課</p> <p>① キャンパスの美化（清掃等）に関すること キャンパスの安全（防災・警備等）に関する こと（食料と水の備蓄及びAED設置等） 休日・夜間の研究室等の使用手続きに関する こと TAの交通費の申請に関すること TAの出勤簿に関すること TA・RAの手当に関すること 理工サーキュラーの発行</p> <p>② 諸式・諸行事に関すること 公開市民大学に関すること 後援会に関すること 郵便及び宅配便に関すること 教職員の国内・海外出張手続きに関すること 各種公文書の受信及び保管に関すること 各種渉外に関すること 会議室等施設使用の手続きに関すること 教職員の福利厚生等に関すること</p> <p>駿河台：10号館6階 03-3259-0514 船橋：13号館1階 047-469-5330</p>	<p>会計課</p> <p>① 学費（振込み依頼書の発送・台帳の電算処理・ 管理・保管等）に関すること セミナーハウス使用料金の収納に関すること その他各費用の収納及び支払に関すること (船橋校舎は庶務課が窓口)</p> <p>② 予算申請書・決算報告書に関すること 経理統計及び報告に関すること 補助金の経理に関すること 学術研究助成金及び出版助成金の経理に関 すること 後援会の経理に関すること 寄付金に関すること その他経理に関すること</p> <p>駿河台：10号館4階 03-3259-0598 船橋：なし</p>
<p>研究事務課</p> <p>① 理工学部が独自に学術交流を締結している 覚書校との交換留学生派遣及び受け入れに関 すること</p> <p>② 教員の学術研究活動に関すること 理工学研究所に関すること 産官学連携研究に関すること 覚書校との教員の派遣及び受け入れに関す ること</p> <p>駿河台：10号館3階 03-3259-0929 船橋：なし</p>	<p>管財課</p> <p>① 教室・実験室等施設の修繕に関すること 施設・設備関係のメンテナンスの窓口 電気関係トラブルの窓口 各種建物図面等の相談 マイク等物品の貸出し 冷暖房の調整・蛍光灯の交換等室内環境に関 すること 粗大ゴミ・産業廃棄物の廃棄に関すること</p> <p>② 施設・設備関係の営繕・改修に関すること 物品の調達に関すること 業務委託・リースに関すること 火災・損害保険に関すること 固定資産の管理に関すること 粗大ゴミ・産業廃棄物・実験廃液の廃棄に関 すること</p> <p>駿河台：10号館2階 03-3259-0620 船橋：13号館1階 047-469-5620</p>	<p>教務課</p> <p>① 履修登録、成績に関すること 授業、休講、補講に関すること 定期試験、追試験等に関すること 学生証、在学・成績等証明書の発行に関する こと 現住所、氏名等の変更に関すること 学生の学会参加等に伴う経費補助に関する こと 休学、復学、退学、卒業等に関すること 教職課程、学芸員課程に関すること 海外留学に関すること</p> <p>② 卒業生に対する卒業・成績等証明書の発行に 関すること</p> <p>駿河台：1号館1階 03-3259-0580 船橋：14号館1階 047-469-5304</p>
		<p>教務課（入試係）</p> <p>② 入学試験（学部・大学院）に関する情報提供 受験生の理工学部見学等に関する入試広報 活動 受験生へ学部案内</p> <p>駿河台：1号館1階 03-3259-0578</p> <p>② 入学試験（短期大学部）に関する情報提供 船橋：13号館1階（インフォメーションセンター） 047-469-6249</p>



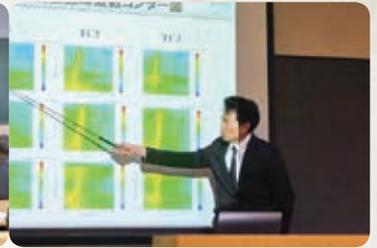
土木工学専攻



物質応用化学専攻



海洋建築工学専攻



機械工学専攻



物理学専攻



航空宇宙工学専攻



社会交通工学専攻



情報科学専攻



数学専攻



精密機械工学専攻



電気工学専攻



電子工学専攻



不動産科学専攻



建築学専攻



量子理工学専攻

平成28年度
大学院理工学研究科
修士論文審査会
2017.2.20-23



1万「いいね!」👍 キャンペーン実施中!!

日本大学理工学部公式 Facebook ページあります。



今春、新設2学科から1期生が巣立ちました。教員にとって1期生への思いは格別です。実は私も前職場は新設大学で、1期生らとともに試行錯誤を繰り返しながら教育プログラムを造り上げてきた経験をしています。1期生らは学生でありながら、教育プログラムを造り上げる苦楽をともにした協働者(仲間)であったと思っています。新たな学科を造り上げてきたパイオニアとして、社会に出てもその経験をいかして活躍してくれることを期待しています。(轟)

Circular

理工サーキュラー

VOL.47
2017.SPRING
No.172

発行
日本大学理工学部広報委員会

広報委員長・編集長
轟 朝幸

編集委員会

藤井紫麻見 高橋 亮輔 加納奈保子 吉田 征史 伊東 英幸 佐藤 光彦 重枝 豊
惠藤 浩朗 岡田 智秀 鈴木 康方 齊藤 健 佐々 修一 戸田 健 岩田 展幸
高橋 聖 谷川 実 浅井 朋彦 吉開 範章 長峰 康雄 田中 和仁 杉山 岳寛
伊藤 潤一 石井 利久 小寺 貴久 小池 文夫 塚田 淳 鈴木 智子

編集協力

株式会社ムードック(長谷川 香 細田 明子 熊木美千代)

17032431000